

会 議 録

| | |
|-----------|--|
| 会 議 の 名 称 | 平成25年度 第4回 所沢市行政経営推進委員会 |
| 開 催 日 時 | 平成26年3月26日(水) 午前10時から正午まで |
| 開 催 場 所 | 市役所高層棟3階 301会議室 |
| 出席者の氏名 | 石川久、一ノ宮淑子、植村尚史、大崎映二、河登一郎 |
| 欠席者の氏名 | 斉藤祐次、藤井多希子 |
| 説明者の職・氏名 | |
| 議 題 | (1) 第10回所沢市有言実行発表会の結果について (2) 第5次所沢市総合計画前期基本計画の進捗状況について (3) その他 (4) 提言に向けた意見交換 |
| 会 議 資 料 | ○平成25年度「第10回有言実行発表会」発表事例一覧(資料1) ○第10回有言実行発表会結果(資料2) ○第10回有言実行発表会プログラム(資料3) ○K. A Times《H26.2.26発行》(資料4) ○平成25年度政策評価表(資料5) ○前期基本計画「まちづくりの目標」の目標指標の実績一覧表(資料6) ○所沢市の将来人口《平成26年～45年》(資料7) ○三大都市圏ベッドタウンの課題とその対応《石川委員》(資料8) |
| 担 当 部 課 名 | 政策企画課主幹 加藤孝之、政策企画課副主幹 井上典、 政策企画課主任 中尾麻衣子 (説明員) 政策企画課主査 大出 久美 経営企画部政策企画課 電話 04(2998)9027 |

様式第2号

| 審議の内容（審議経過・決定事項等） |
|---|
| <p>(1) 第10回所沢市有言実行発表会の結果について 事務局から、資料1～4に基づき説明を行った。</p> <p>【委員から出された意見】</p> <ul style="list-style-type: none">・発表会の事例応募が強制的ではなく、応募があることがいい。改革改善が自発的に行われることで、組織は活性化される。・ジェネリック医薬品の取組みは、他自治体でも実施されている。それなのに大賞となったということは、効果額だけでなく、シールの配布など独自の啓発活動が評価されたのだと思う。・実施した取組みが成果に繋がったと報告している事例の中でも、実際にはその取組みの結果ではなく他の要因でそうなった可能性がある。因果関係をしっかり検証する必要がある。・発表会や一人一改善、職員提案などの職員発信と、アイデアコンテストのような市民発信の2本立てで改革に取り組んでいていい。 <p>(2) 第5次所沢市総合計画前期基本計画の進捗状況について 事務局から、資料5・6に基づき説明を行った。</p> <p>【委員から出された意見】</p> <ul style="list-style-type: none">・それぞれの計画と評価の関連付けが必要である。・政策評価表の目標指標の数値は、目標値と実績値を2段書きにして対比できるようにしたほうがいい。・実績値が低かった場合に、どのような施策を実施した結果なのか、今後どのような施策を実施していくべきなのかを評価表に書き込んでいかないといけないのではないかと。最初から活動計画の実行目標と活動内容が書かれてしまっている。・指標の目標値と施策内容の関係がよく分からない。評価表を作成した方も理解していないのではないかと。・施策評価が、マネジメントをするうえで役立っているのか。施策評価の段階で、その下にぶら下がる事業をマネジメントしていくことが大事である。・目標⇒実績⇒改善策⇒実行といったサイクルが必要であるが、実績の改善策が見えてきていない。・市の職員の仕事は作文が90%であると言っている方がいるが、計画を実行に移す、具体的仕組みが大切である。・活動実績の説明ではなく、成果の説明が大切である。 |

- ・成果を上げるためには、実績結果を予算や人事評価に結び付けるべきである。
- ・計画等作成する資料については、より正確に、状況を把握できるようにする必要がある。
- ・実績結果を深く掘り下げていかないと、実績をあげることはできない。何が原因で、今があるのかを見つめ直す必要がある。

(3) その他

事務局及び説明員から、資料7に基づき所沢市の将来人口について説明を行った。また、石川委員から提供された資料8について、委員から説明していただいた。

| 発言者 | 審議の内容（審議経過・決定事項等） |
|-------|--|
| 大崎委員長 | <p>(4) 提言に向けた意見交換</p> <p>前回第4期での提言は、各委員が800字～1,000字程度意見を書いてそれをまとめたが、なかなか難しいものがあつた。そこで今期の提言のまとめ方としては、これまでに委員から出された意見を整理したものを次回の会議で提示するので、それを基に議論を進めていくのはどうか。</p> |
| 河登委員 | <p>この種の委員会や審議会も多くは、委員のいろいろな発言を、行政事務局が整理要約した原案を作成し、複数の委員が（大勢に影響ない）表現上の問題等数点について指摘してあとはシャンシャンシャン。ご苦労様でした、で終わるケースが多い。</p> <p>今回のまとめではその方式ではなく、委員がそれぞれ主張を書いて提出し、委員会で徹底的に議論した結果を、事務局のご協力も得て、委員会としての報告書としてまとめるべきである。</p> |
| 大崎委員長 | <p>それでは、これまで出された意見も含めて各委員から意見を提出していただき、それらの意見を総合計画の章別に整理する。整理したものを次回の会議で提示するので、それをたたき台にして議論を進め、提言をまとめていくこととする。</p> |